

本日の流れ

1 本日の進行予定（全体で1時間30分を想定）

- 1) 開会挨拶
- 2) 地域公共交通計画と地域懇談会の開催について【資料1】
- 3) 資料説明・質疑応答(30分程度)【資料2・参考資料】
 - 小金井市の状況について
 - 交通に関する課題と基本方針案について
- 4) 意見交換(グループ別に進行)
 - 自己紹介
 - 論点1「小金井市の公共交通や移動に関する課題」(15分程度)
 - 論点2「基本方針案について」(15分程度)
 - まとめ(グループでの意見内容をお知らせします)
- 5) 閉会挨拶

2 意見交換について

- グループに分かれて意見交換をお願いします。グループは事務局から発表します。
- 意見交換にあたり、以下についてご注意くださいようお願いいたします。

【意見交換にあたってのお願い】

- その1 多くの方に意見をいただきたいため、ご意見はできるだけ簡潔にお願いします。
- その2 他の方の意見は最後まで聴いてください。
- その3 他の方の意見を否定しないようにしてください。
- その4 必ず発言する必要はありません。「今はまだ考えがまとまらない」という場合は、それを教えてください。

地域公共交通計画とは

1 地域公共交通計画を策定する意義

地域の移動ニーズを踏まえ、地域が自ら交通をデザインしていくことの重要性の高まりを受け、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正法が令和 2 年 11 月に施行され、「地域公共交通計画」の策定が努力義務として位置づけられました。

社会的な背景

- ・近年の人口減少の本格化
- ・高齢者の運転免許の返納の増加

公共交通を取り巻く状況

- ・運転手不足の深刻化
- ・公共交通を確保・維持するための公的負担の増加

公共交通の維持は容易ではなく、

民間の交通事業者が収益を確保できる形で公共交通を担う

という構造が困難になってきている

公共交通特性や役割

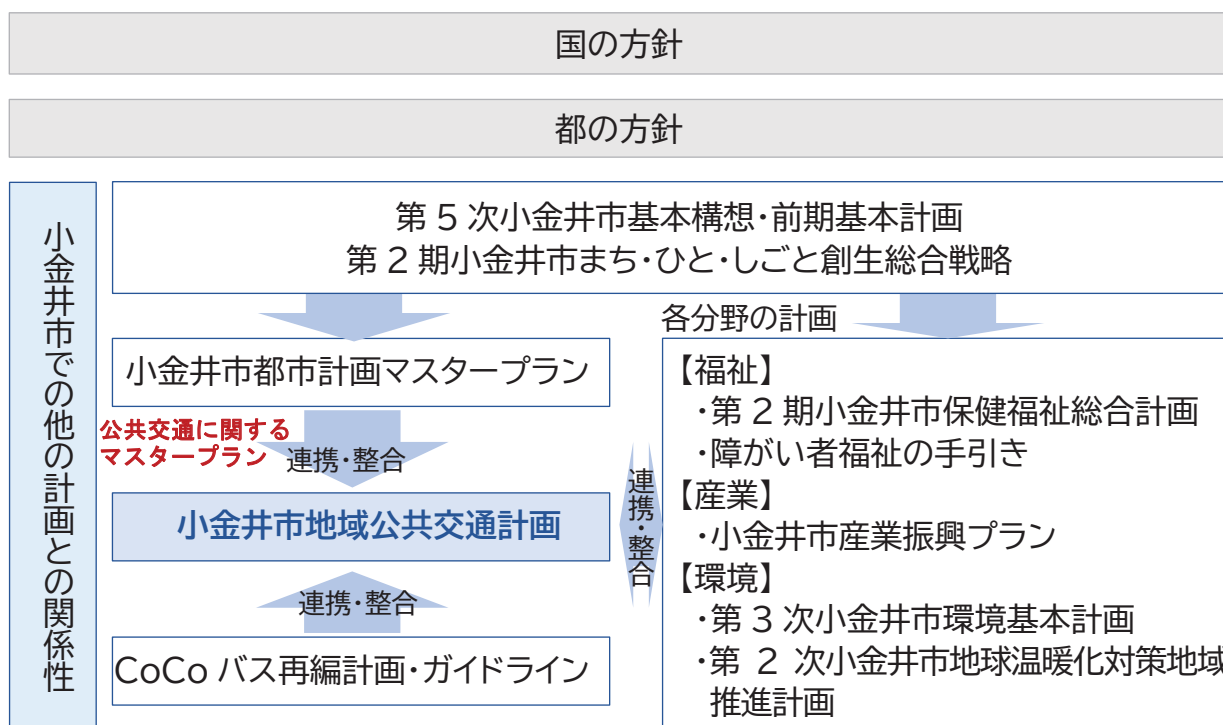
- ・移動手段の維持・確保は、まちづくり、観光振興、健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな効果を有する
- ・多様な関係者が連携し、地域の暮らしと産業を支える移動手段を確保することが重要
- ・地方公共団体が中心となって、地域戦略の一環として取り組んでいくことが重要

地域の移動ニーズを踏まえ、地域が自ら交通をデザインしていく

「地域公共交通計画」の策定が努力義務として位置づけ

小金井市では、地域公共交通計画の検討にあたり、国や都の方針を確認するとともに、小金井市の基本構想や基本計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略での方針に基づき、各関連計画との連携・整合を図り、以下を考慮して公共交通に関するマスタープランとして本計画を定めます。

- コミュニティバス再編後（令和4年8月再編計画策定、令和5年4月再編運行開始）の市内の地域公共交通の在り方を示す
- 持続可能な地域公共交通ネットワークを構築し、鉄道・路線バス・コミュニティバス・タクシー・その他の交通体系全体を活用する
- 市民をはじめとする人々の移動の利便性を向上させる



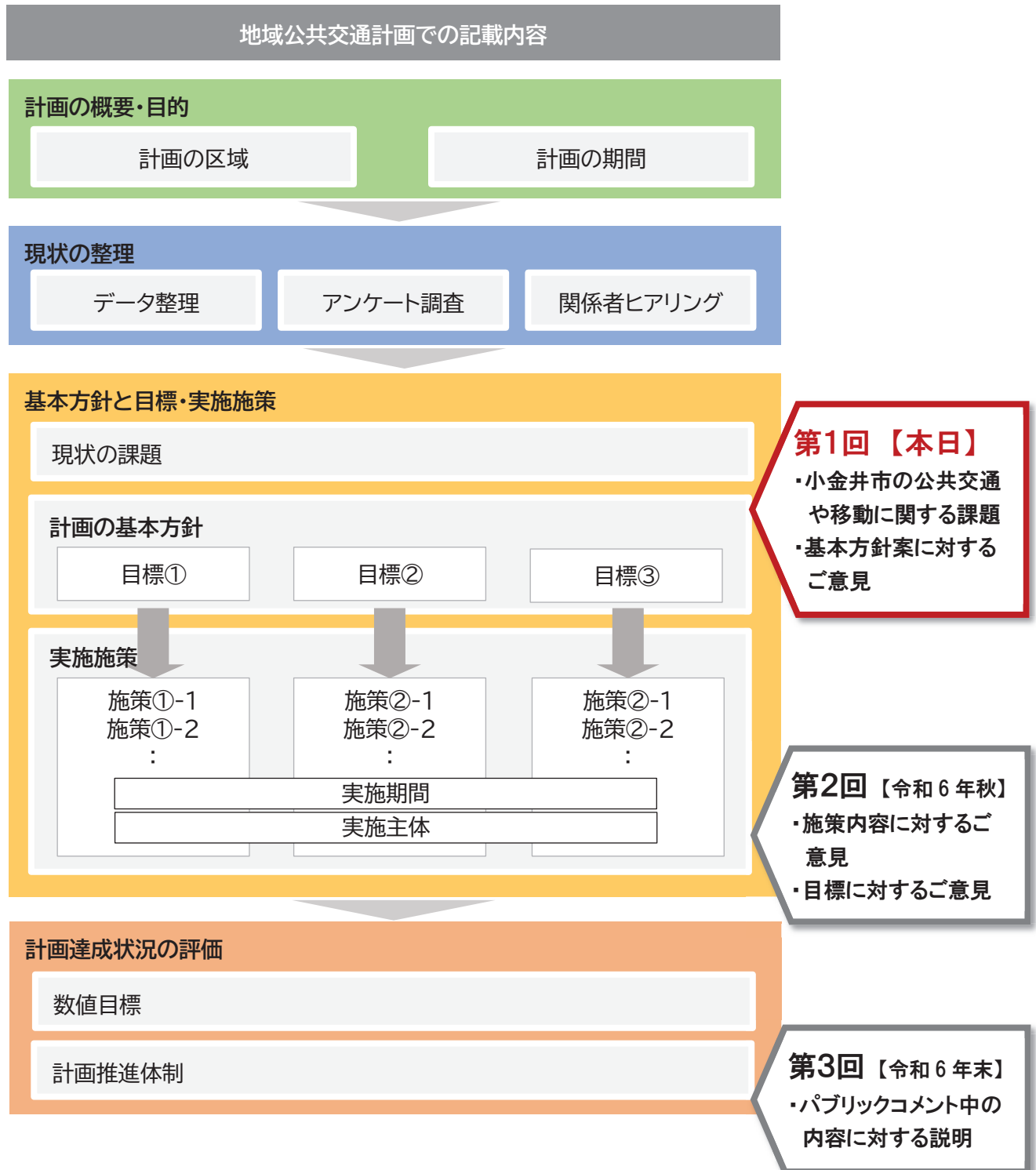
2 策定のスケジュール

令和5年度・6年度の2か年に渡り検討を行い、令和7年3月の策定を目指す。

		令和5年										令和6年度												
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小金井市 地域公共交通計画	1 地域の現況整理	■																						
	2 関連計画の整理																							
	ア 上位関連計画の整理	■	■	■	■																			
	イ 最新の社会動向の整理	■	■	■	■																			
	3 地域住民のニーズ調査																							
	ア 市民アンケート調査	■		設計	■		実施	■		まとめ														
	イ 利用者アンケート	■		設計	■		実施	■		まとめ														
	4 地域公共交通の現状・問題点、課題の整理											懇談会後修正	■											
	5 地域公共交通計画の基本方針・目標の検討											懇談会後修正	■											
	ア 基本方針の検討											■												
	イ 目標と数値指標の設定											■	目標	■		数値目標、目標値	■							
6 目標の実現のための施策の検討											■	■		■		■								
7 計画素案の作成																		■	■					
8 パブリックコメントの実施																			■					
9 計画書の作成																				■				
会議	10 地域公共交通活性化協議会の開催		①	・現況整理 ・アンケート内容																				
	11 地域懇談会等の実施								①	・課題 ・基本方針											②	・施策内容 ・目標		
																					③	・パブコム内容説明		
																							⑦	
																							パブコム結果	

3 地域公共交通計画の構成

地域公共交通計画での記載事項と地域懇談会でいただきたい意見の内容は以下のとおりです。



1. 交通に関する現状・問題点の整理

移動特性

- 小金井市はコンパクトなまちであるため、市内の移動は徒歩（53.4%）、自転車（33.6%）が中心。市外への移動では、鉄道が多く（70.2%）利用されている。（東京都市圏パーソントリップ調査）【参考p5】
- 駅への移動手段は徒歩が中心（69.9%）で、乗合バスも14.4%の方に利用されている。（国勢調査）【参考p5】
- 通学は他地域からの流入、通勤は小金井市からの流出が多く、特にJR中央線沿線地域への通勤人口が多い。（国勢調査）【参考p6】
- 日常移動での交通手段として、いずれの目的の移動でも徒歩や自転車の利用が多く、通勤・通学や趣味・娯楽施設への移動では鉄道の利用も比較的多い。（市民アンケート）【参考p7】
- 市内には複数の大規模な公園があり、休日には市内外から多くの来訪者がいる。【参考p8】

交通特性

- 公共、商業施設は駅を中心に集積。医療施設は駅から離れた地域にも点在。【参考p8】
- 主要な道路から住宅地に入ると細い路地が多く、大型の車両が通行できない区間も存在。【参考p9】
- 国分寺崖線により、市内南側の地域では南北移動や駅へのアクセスにおいて、徒歩や自転車での移動負荷が大きい。【参考p10】
- 交通事故発生件数及び死傷者数は減少傾向にある。事故要因をみると、自動車及び自転車乗用中の事故が比較的多い。（警察データ）【参考p11】

鉄 道

- JR中央線が市の中心を東西方向に運行しており、運行本数・時間帯共に充実。市民のみならず近隣市を含めた多くの方の移動手段として大きな役割を果たしている。また、安全性・快適性向上のため、ホームドアの設置及びグリーン車の導入が予定されている。【参考p12～13】
- 市内3駅の乗降人員は、人口の増加に伴い増加傾向が続いていたが、新型コロナウイルス感染症の影響によって大きく減少している（12%減（R3/R1年度））。（事業者データ）【参考p12】

路線バス

- 市内を循環する路線のほか、ほとんどが南北の隣接市と接続する路線となっており、市内外からのJR中央線沿線への移動需要を担っている。【参考p14・16】
- 1日あたり400本を超える本数が運行するなどサービス性の高い区間も存在する。【参考p17】
- 新たな生活様式や価値観の定着により、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して利用者数が10～15%の減少のまま横ばいで、これ以上の回復は見込めない可能性がある。（事業者ヒアリング）【参考p18】
- 利用者数の減少や運転士不足により、一部路線では減便するなどサービスの維持が困難となっている。（事業者ヒアリング）【参考p4】
- 武蔵小金井駅北口や休日の小金井公園周辺で交通集中や渋滞による定時性への影響が生じている。（事業者ヒアリング）【参考p19】

コミュニティバス

- 鉄道や路線バスでカバーされない公共交通不便地域をCoCoバス及びムーバスで補完している。なおおよそ市内を網羅的に公共交通が運行している。【参考p14～15・20】
- 新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数の減少や人件費をはじめとした運行経費の増大により、年間約8千万円の市の補助により運行を維持している状況。【参考p21～22】

タクシー

- 昼間時間帯の通院等の個別移動ニーズや、鉄道やバスの運行終了後の時間帯の移動を担っている。（事業者ヒアリング）【参考p22】
- 運転士不足・高齢化により、車両の稼働率が6割程度で需要に対してサービス提供のミスマッチも発生。（事業者ヒアリング）

シェアモビリティ

- JR駅を中心にシェアモビリティが配備されており、隣接市との相互利用も可能となっているが、市内のポート数は限定されており、市民の利用経験も少数に留まっている。（市民アンケート）【参考p23】

公共交通

2. 社会情勢等

市の将来像「いかそうみどり 増やそう笑顔 つなごう人の輪 小金井市」

人口動向

- 小金井市の総人口は、令和12（2030）年をピークに徐々に減少に転じることが予測されている。【参考p2】
- 一方、65歳以上の老年人口は今後も増加が続き、令和32（2050）年には、おおよそ3人に1人が高齢者となる時代が到来すると想定される。【参考p2】

まちづくり

- 市民サービスの向上等を目的として、新庁舎・（仮称）新福祉会館の建設が予定されている。【参考p3】
- 武蔵小金井駅北口周辺の再開発事業、東小金井駅北口土地区画整理事業が進められている。【参考p3】

持続可能な社会に向けた展開

- 自動車運転者の改善基準告示による労働環境改善により、運転士不足へ拍車がかかることが想定される（2024年問題）。【参考p4】
- 地域公共交通の維持・活性化に向けて、公共交通同士の連携や交通分野以外と連携した取り組みが推進されている。
- 自動運転や新たなモビリティの導入に向けた実証実験の広まりや、ICT等の新技術の活用が進んでいる。
- 移動における低炭素化の実現が求められている。

3. 市民・公共交通利用者ニーズの整理

日常的な移動（市民アンケート）

- 買い物先、通院先、趣味・娯楽施設への移動では、7割以上が「特に問題はない」と回答している。通勤・通学先への移動においても「特に問題はない（56%）」への回答が最も多い一方で、「移動に時間がかかる（20%）」や「バスや鉄道が利用しにくい（13%）」への指摘も挙げられている。【参考p24】

バスの満足度（路線バス利用者アンケート/CoCoバス利用者アンケート）

- 路線バスは約6割、CoCoバスは約5割と、それぞれ過半数が、サービスについて「十分満足」または「ある程度満足」と回答している。【参考p25】
- 路線バス利用者のサービスへの評価を点数化すると、挙げられたなかでは「運行本数（頻度）」、次いで「時間通りの運行」について不満度、重要度が相対的に高い。【参考p26】

バスの不満事項（市民アンケート）

- バスサービスへの不満は「特になし」の方が最も多い。一方で、サービスへの評価を点数化すると、「運行本数（頻度）」、次いで「運行ルート」について不満度、重要度が相対的に高い。【参考p27】
- バスの利用頻度が低い（週に1回未満）理由は、「他の手段で移動できるため」が約6割と最も多い。15%は「運行本数（頻度）」を挙げている。【参考p28】

今後の公共交通（市民アンケート）

- 自動車運転免許を保有している方は全体の約7割。60歳以上の方のうち約2割は返納済（取消・失効含む）である。また60歳以上の免許保有者のうち9割近くが近いうち・または将来的に返納を検討しており、今後の高齢化に伴い自由な移動が困難となる方が増加すると見込まれる。【参考p29】
- 公共交通の費用負担の考え方は、「利用者が負担する」を2～3割が、「利用者負担を基本的に、市も一部を負担して支える」を5～6割が回答しており、「利用者と市に加えて、地域も一部を負担して支える」への回答は1割程度。【参考p30】
- 若年層や中年層は新たな交通手段や移動の仕組みに対して抵抗感が低い。高齢者でも自らの運転を伴わないサービスに関しては抵抗感が低い。【参考p31～32】

4. 交通に関する課題の整理

【課題1】公共交通の維持・さらなる利用促進

- ◆新たな生活様式や価値観の定着により、公共交通（鉄道・路線バス・コミュニティバス）の利用者数は新型コロナウイルス感染症拡大前より減少傾向にある。将来的な人口減少に伴いさらなる利用者の減少及び深刻な運転士不足によるサービスの縮小が見込まれる。
- ◆一方で、高齢化の進行により公共交通を必要とする方の割合が増加することとなり、公共交通サービスの維持が求められる。
- ◆市民・来訪者を含めた公共交通の利用促進により、今後も公共交通サービスを維持できる環境が必要。
- ◆バス・タクシー運転士の高齢化や働き方改革等の社会情勢を踏まえ、公共交通の運行の効率化が求められており、多様な交通手段との組み合わせや新技術の活用も必要。
- ◆これらの課題を、市・市民・事業者で共有し、喫緊の課題として取り組みが必要であるという認識を広めることが必要。

【課題2】公共交通の利用に課題がある方への対応

- ◆CoCoバスの再編により市内のほとんどが公共交通でカバーされているが、道路状況等により公共交通不便地域として残っている箇所や、アクセスが不便な施設が残っている状況。
- ◆現状の公共交通サービスを最大限活用し、高齢者、障がい者や子育て世帯等多様な主体がさらに利用しやすい移動環境への改善が必要。
- ◆長期的には、高齢化の進展や新たな移動サービスの普及により、ニーズが変化していくことが想定されるため、移動データや民間活力等も活用しながらきめ細かく対応していくことが必要。

【課題3】まちづくりと連動した交通の構築

- ◆市域の中央に新たな拠点となる新庁舎・（仮称）新福祉会館の建設が予定され、武蔵小金井駅周辺及び東小金井駅周辺でのまちづくりの進展に伴う対応が求められる。
- ◆住みやすく、住み続けたいまちであり続けるため、交通結節点としての拠点性を強化するとともに、にぎわい・活力の向上に向けた取り組みが求められる。

【課題4】多様な手段の効果的な活用

- ◆新たな交通手段や移動サービスに関する技術革新・法制度改正を踏まえた検討が必要。
- ◆新たな交通手段が小金井市の公共交通体系において有効に機能するよう、多様化する移動手段と既存の公共交通との関係性を整理した上で、適切な役割分担・連携により、活用の方向性を検討することが必要。
- ◆低炭素社会の実現に向けて、自動車移動からの転換や環境にやさしい移動手段の活用が必要。

②基本方針（案）

小金井市の交通に関する4つの課題の整理を踏まえ、小金井市の地域公共交通のあるべき姿を以下のとおり検討しました。

基本方針（案）：誰もが自由に選択できる地域公共交通を、みんなで守り育てるまち

③目標（案）

地域公共交通のあるべき姿を実現するために、小金井市で取り組む事項の目標と、取り組みの具体イメージ（例）を以下のとおり検討しました。

目標1 現状の地域公共交通の維持・改善

- 例：公共交通ネットワークの維持
- 例：CoCoバス運行ガイドラインに基づくコミュニティバスの効果的な活用

目標2 誰もが安全・安心で快適に移動できる環境づくり

- 例：市民啓発・教育（モビリティ・マネジメント）、心のバリアフリーの推進
- 例：多様な主体・イベントと連携した公共交通の利用促進
- 例：バス待ち環境の改善

目標3 拠点としての魅力向上に向けた交通結節機能の強化

- 例：交通結節点における情報提供の充実化
- 例：多様なシェアリングサービスの結節拠点の整備

目標4 新たな技術等の効果的な活用に向けた検討

- 例：新たな移動手段や仕組みによる移動の選択肢の拡充
- 例：オープンデータのまちづくりへの活用